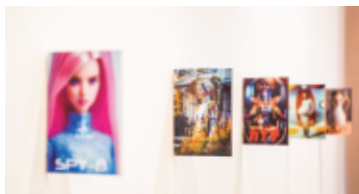


AI技術を使った“架空の本”のフェア

今回の展示は2032年に架空の出版社が開くブックフェアという設定。中央には象徴的な存在として「弁天様」が置かれました。中高生を中心に多くの人が、奇妙だけれどもどこか惹かれる弁天様の存在に足を止め、スマホを向けます。また、FakebookはすべてAIが作画したもの。昨今、AIの飛躍的な進歩で人間の仕事が奪われることが危ぶまれています。志茂さんは恐れるだけではなく、AIとの適切な付き合い方を学ぶことで、明るい未来が来ると信じています。今回の展示では、多くの人が未来への小さな期待を抱いたのではないのでしょうか。



映像作品「弁天様」



Fakebookシリーズ

市民参加型の「本に挟まる人」



作品の一つ「本に挟まる人」では、5月の展示に先駆けて4月初旬に事前撮影会が行われ、集まった約40名の市民が思い思いの“挟まる人”を熱演しました。現代美術は難解なものだと思われがちですが、志茂さんは現代美術とはそのように敬遠するのではなく、知識の有無に関わらず、誰でも鑑賞できるものであってほしいと考えています。展示初日に開催されたトークイベント「メディアアーティストと語る未来の生き方」では、志茂さんがそうした思いやアーティストとしてのルーツとなっている、幼少期に出席した特撮の思い出などを語りました。

MEDICOS COLUMN

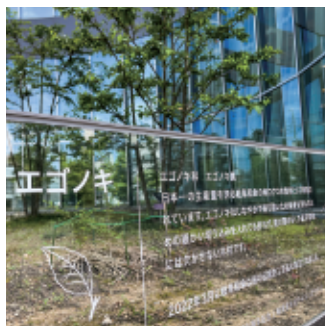
「本の蔵」で静かに佇むメディコスのルーツ

「本の蔵」に銅像がある矢橋亮吉氏は、岐阜市の図書館を支えてきた人物。大正12年、各地で私立図書館や文庫が増える中、濃飛農工銀行頭取の矢橋氏の援助により、岐阜市立図書館の前身、(財)岐阜簡易図書館が設立。昭和33年に同氏所有の八ツ寺町の土地が岐阜市に寄贈され市立図書館(旧本館)が開館しました。メディコスに繋がる先人の想いとは? その眼差しは今も未来を見つめているのかも。



和傘の要、傘口クロに欠かせないエゴノキ

岐阜市は和傘の生産量が日本一。2022年には岐阜和傘が国の伝統的工芸品に指定されました。傘を開閉する部品「傘口クロ」には、しなやかで粘り強い「エゴノキ」が欠かせません。傘口クロを作る職人は全国的にほとんどおらず、材料の供給体制も不安定な状況。純国産和傘の持続が危ぶまれています。実はメディコスの北側にはエゴノキが。エゴノキから岐阜の伝統工芸に触れてみてはいかがでしょうか。

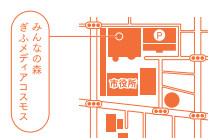


みんなの森 ぎふメディアコスモス

〒500-8076 岐阜市司町40-5
TEL.058-285-4101
<https://g-medicosmos.jp/>

「ぎふメディアコスモス事業課」「岐阜市立中央図書館」「市民活動交流センター」「多文化交流プラザ」の4つの組織・機能からなる複合文化施設です。

季刊 メディコス文化道 VOL.09 (2023年6月発行)
発行 / みんなの森 ぎふメディアコスモス
編集・デザイン / さかだちブックス(株式会社リトルクリエイティブセンター)
表紙イラスト / スケッチジャーナリスト 大角真子



【特集】 岐阜アートギャザリング2023が開催されました!
「おとなの夜学」ブックレットが完成しました!

【岐阜の文化地図】 金公園〜柳ヶ瀬編



特集
01

岐阜アートギャザリング2023が開催されました!

2023年5月3〜14日に「岐阜アートギャザリング2023」の一環としてメディコスのドキドキテラスで、メディアアーティストの志茂浩和さんの展示が行われました。



2022年にスタートした岐阜アートギャザリングは、岐阜市と東京都豊島区との都市間交流に伴い、豊島区で2017年から開催されている公募展の選抜作家を中心に、その作品を岐阜市内で紹介する試みです。今年はメディコスのほか、まちなかに点在する3つの会場(十六銀行、岐阜信用金庫、柳ヶ瀬画廊)で、およそ1ヶ月間にわたりさまざまな作家の作品が展示されました。

ドキドキテラスには、個展「弁天舎ブックフェア」と題して、メインの映像作品「弁天様」と、AI技術を使って生み出された“表紙だけの架空の本”である「Fakebook(フェイクブック)」シリーズ120点が登場。さらに、事前にメディコスで、一般応募で集まった参加者を被写体として撮影された「本に挟まる人」の映像もお披露目され、多くの若者がつめかけました。

特集
02

「おとなの夜学」ブックレットが完成しました!

知られざる岐阜の文化を学ぶ「おとなの夜学」の内容をまとめたブックレットの最新号2冊が2023年5月8日に発行されました!



“岐阜にいながら 知らなかった岐阜を知る”をコンセプトに、2015年からメディコス2階の岐阜市立中央図書館が開講している学びの場「おとなの夜学」。岐阜の郷土文化をテーマに、その道に明るい講師を迎え、主に90分間程度のトークイベント形式で行われます。2023年度で9期目を迎え、これまでに46回の講座を重ねてきました。そのテーマは食や歴史、文学など多岐にわたります。この講座で繰り広げられた熱いトークを、

会場だけに留めるのではなくアーカイブ化しよう、と2019年から、印象的な講座をピックアップして発行しているのがブックレットです。今回発行された最新号は「第12夜 あなたは、ほんとうの岐阜まつりを知らない」(2017年)と「第41夜 養虫山人、美濃に帰る」(2021年)。過去の講座の中から、特に好評でより多くの人に知ってほしい講座の内容を改編し、注釈を加筆するなど、より深く掘り下げてまとめている。

紙媒体として残す意義

「おとなの夜学」は、誰でも見ることができるアーカイブ動画をYouTubeで配信しています。楽器の演奏など、トークだけではない実演の要素が盛り込まれる回もあるため、現場の空気がそのまま届けられる動画で残すことも大切ですが、図書館としては紙媒体として残すことの意義も強く感じています。今回発行した最新号を含め、これまで発行したブックレットは14冊。すべて図書館で閲覧でき、さらに貸出や販売も行っています。手に取った人が岐阜の知られざる文化に触れられたり、紙媒体として手元に置いておくことで好きなタイミングで繰り返し読んだりすることができます。

ブックレットを読むことで、岐阜まつりの見え方が変わったり、かつて岐阜の地で生きた養虫山人の人生を通して、現代を生きるわたしたちの生き方のヒントが見つかったりするかもしれません。



岐阜まつりの様子(提供:岐阜市夜学委員会)



長崎屋前を通る福庵
出典:「養虫山人絵日記 東海編」(1980、養虫山人絵日記保存会)

お知らせ

おとなの夜学 YouTubeで過去の講座をご覧ください

みんなの図書館 おとなの夜学
岐阜市立図書館 YouTube



おとなの夜学
ブックレットは
岐阜市立中央図書館で
販売中!
(1冊300円)

CITIZEN ACTIVITIES FILE

みんなの森の市民活動 01

メディコス1階の「市民活動交流センター」では、自分たちのまちをもっとよくしたいという思いで活動する市民団体に事務所スペースと交流の場を提供しています。令和5年度は8つの団体が市民活動団体登録制度を利用してメディコスを拠点に地域活動を行っています。

NPO法人ほっぺの会

「食べることは生きること」をコンセプトに掲げ、食に関する講座やイベントを通して、健やかな心と身体を育むさまざまな取組みを実施。最近ではパパをターゲットにした活動にも力を入れています。

ABOUT

1

ほっぺの会って?

NPO法人ほっぺの会は2010年に任意団体として発足し、2021年に法人化。現在は管理栄養士や保育士、食育や子育てに関心のあるメンバーが集まり16名で活動しています。親子で参加できるクッキング講座や、通年で食の基本を学ぶジュニアクッキングマスター講座、ベビーマッサージの講習、託児サービス、キャリア支援などその活動は多岐にわたります。キッチンが必要な講座は地域のコミュニティセンターで開催し、月1回の定例会はメディコスを拠点としています。



PICK UP

2

ほっぺの会 ここに注目!

10年以上にわたる活動のなかで、必要な取組みも変化しています。今、力を入れているのが「パパ」を対象とした取組みです。4月末に初めて開催した「園児とパパのCOOKING」には8組の親子が参加し、いなりずしとケーキのデコレーションに挑戦。家庭ではママが中心となりがちですが、共働きが主流となるなかでパパの家事参加が求められてきています。講座ではパパが積極的に料理する姿が見られ、パパも子どもの想像以上の力を見てびっくり。今後はパパ同士のコミュニティ形成が目標です。



COMMENT

私たちはメディコスの開館前から活動していましたが、メディコスが開館して、ここを活動拠点にしてから格段に動きやすくなりました。もともと自宅で仕事をしていたので、家庭との区別が曖昧になってしまっていたのが悩みでした。今はメディコスに来ることによって、家庭と仕事を切り替えられるのでありがたいです!



理事長 伊藤 恵さん

Vol.01

TALK SESSION

メディコスと描く まちの未来地図

2023年度で開館8年目を迎えるメディコス。岐阜市の歴史・ひと・文化の情報や魅力を集積、発信する「ぎふ古今」をオープンするなど、文化拠点としての役割を深めてきました。地域の過去や現在を踏まえ、未来をどう描くのか？総合プロデューサーの吉成信夫が地域のキーマンとまちの未来を語ります。

多様な文化と日常が、引き寄せられ交差する商店街。

吉成 僕が岐阜にきて9年目になりますが、当初、柳ヶ瀬商店街はびっくりするくらい寂しい風景で。文化的な匂いがするところはあるのだろうかと探していたときに会ったのが昭和の名作映画をフィルム上映する「ロイヤル劇場」と、上田さんが運営されている「やながせ倉庫」でした。どんな時も変わらずそこにあり続ける存在って大事だね。

哲司 ありがとうございます。やながせ倉庫ができたのは2004年なんですよ。その頃は吉成さんが岐阜にいらっしゃった頃より、もっと人がいなかった。やながせ倉庫にお客さんがくると、お店側がびっくりするくらい。

沙奈 そんな人がいない商店街のなかで、やながせ倉庫のような変わった場所を見つけ出せる人って、変な人しかいないですよ（笑）。

哲司 面白がってくれるのは10人中2人だね（笑）。

“整備”される柳ヶ瀬商店街

吉成 今はどうですか？

沙奈 20年近く前と今ではお客さんの層が全然違います。“変な柳ヶ瀬”がだんだんと“整備”されてきている感じがするんです。

哲司 一般的に考えると、整備されての方がいいと思う。ただ、全部そうってしまったらつまらないという気持ちもあります。2000年頃、商店街の衰退でこれからどうしていくかという会議が溢れていた。そうすると出るのが駐車場を作るとか、ショッピングセンターに対抗する案ばかりなんです。でも、便利さの面では勝てるわけがない。そんな時に名古屋から来た若い子たちが嬉々として商店街が面白いていうんですよ。それを聞いて衝撃を受けて、僕の商店街の見方がガラッと変わりました。例えば、きれいな通りを一本入ると、小汚いけどすごく旨い飯屋があるとか、カッコいいお兄ちゃんがやっているレコード屋があるとか。古いものと新しいものが混在する価値観が大事なと思う。

変わりゆく商店街のあり方

吉成 古いものと新しいもの、どちらも大事なんだよね。ちょっと前まで柳ヶ瀬は、お母さんがベビーカーを引いて歩くような場所ではなかった。それが今は再開発でできた「柳ヶ瀬グラスル35」の中に子育て支援施設「ツナグテ」①がオープンしたりして。

哲司 あとは、金公園②のリニューアルも大きいですね。土日なんて親子連れがいっぱい。

沙奈 ただ「古道具 mokkumokku」のお客さんを見てると、子育て世代の方が来てくれるのは嬉しいけど、まだリピーターにまではなっていないように感じています。柳ヶ瀬は、お出かけにはいいけれど、日常を楽しむ場所にまではなっていないというか…。

吉成 どういう店が増えていくといいのかな？

沙奈 うーん。インターネットでものが買えるようになって、お店に来ることの価値が変わってきていると感じます。この先、単純に店をやっているだけでは難しい。だから、柳ヶ瀬にも、ものを販売するだけではない店が増えてくると思います。例えば体験型の店とか。

吉成 それでいうと「HUKIN」③がそうだね。あまり啓蒙的ではない日常寄りの文化が現れていくといいよね。人々の日常と文化が交わる。普段着の感じが柳ヶ瀬には似合うと思う。あとは飲食店も、もう少し日常的な…。例えば、コロッケ屋とかおでんのタネ屋とかさ（笑）。

沙奈 私が小さい頃、やながせ倉庫の1階に、おばあちゃんが1人でやっている餅屋さんがあったのを思い出しました。海苔餅を焼いて、醤油をつけて売ってたんですけど、それがおいしくて、いつもおやつに食べていました！

吉成 食べ物は何人を引き寄せるよね。オープンキッチンがあったりするっていいな。

沙奈 それなら「デイリーこやなぎ」という場所があります。2階から上がシェアハウスになっていて、1階にキッチンがあって、イベントの時に飲食店ができたり、身内でパーティをやったりしています。

行政でも民間でもない 中間領域を担うメディコス

哲司 新しい店が増えて、商店街の空き店舗は昔に比べれば埋まってきました。一方で、店主が高齢になり廃業していくという例もたくさんある。

吉成 そうですね、再開発でもまちの景色が変わったけれど、変わってしまうと意外と前の景色を思い出すことができなくなる。だから、メディコスでは映像や画像だけでも残そうと思って「ぎふ古今」という岐阜の過去と現在のまちの情報を蓄積して発信するシンビックプライドの拠点をつくりました。今はメディコスにしかないけれど、今後もし柳ヶ瀬にも情報端末を置いてほしいという要望があれば、置くことも検討できる。行政だからといってエリアで分けて考えずに、メディコスが行政とも民間とも違う中間領域を担っていったらいいなと思うんです。

沙奈 この「やながせRテラス」もそんな場所ですよ。もっと、Rテラスのような場所が増えてもいいなと思います。

吉成 そうだね、Rテラスには実は私の本棚も置いていただいています。「ぎふ古今」は地域とメディコスを繋ぐために作った場所です。実際にメディコスと柳ヶ瀬をハシゴして巡っている若い世代もいるようだし、メディコスから柳ヶ瀬がもっと一続きの“面”として捉えられと面白くなりますね。



TALK
SESSION
PLACE

やながせRテラス
岐阜市日ノ出町1-20 ロイヤル劇場ビル2F
10:00～17:00
水曜定休

TALK MEMBER



総合プロデューサー
吉成 信夫



やながせ倉庫管理人
上田 哲司 さん



古道具 mokku mokku
上田 沙奈 さん

KEYMAN PROFILE

柳ヶ瀬商店街にある築50年の古いビルを改装し、上田哲司さんが2004年に始めたアトリエビル「やながせ倉庫」。その一角で無人営業からスタートした「古道具 mokkumokku」は、2017年に商店街内に柳ヶ瀬店、2022年に北一色店がオープンし、3店舗に拡大。現在は娘の沙奈さんが代表を務める。

COMMENTARY

1 岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設 ツナグテ

令和5(2023)年4月に「柳ヶ瀬グラスル35」の4階にオープンした岐阜市の子育て支援施設。天候に左右されることがなく子どもが遊べる遊具や、子どもの一時預かり室が備えられ、地域の子育て力向上の役割を担う。市立図書館の蔵書を配架したり司書が出向いてお話し会を開くなどメディコスとも連携している。

岐阜市徹明通2-18 柳ヶ瀬グラスル35 4F
10:00～18:00
毎月最終木曜定休、年末年始休み TEL.058-214-3117

2 セントラルパーク 金公園



柳ヶ瀬商店街の南に位置する公園。令和5(2023)年3月に市の「セントラルパーク」としてリニューアルオープンした。広々とした芝生広場やイベント会場として利用できる多目的広場を備え、小さな子どもから年配の方まで、幅広い世代の市民が集う憩いの場となっている。

岐阜市金町5-7

3 HUKIN

柳ヶ瀬本通りにある服地・手芸専門店「江戸ッ子」内に、令和4(2022)年にオープンしたハンドメイドスタジオ。ミシンやアイロン、広々とした作業台が揃い、スタッフのアドバイスを受けながら、洋服や手芸を気軽に楽しむことができる。遊休不動産の活用を実践する「リノベーションスクール@岐阜」から生まれた新しいかたちの店舗だ。

岐阜市柳ヶ瀬通2-17 柳ヶ瀬江戸ッ子ビル1F
10:00～17:00
水曜定休 TEL.080-4477-8271

gifu まち歩き MAP

地図を片手に
岐阜のまちの
文化を巡ろう

「柳ヶ瀬グラスル35」に代表される、複数の高層マンションや商業ビルの建設、セントラルパーク「金公園」のリニューアルオープンなど、令和に入って景色が急速に移り変わり、まさに過渡期を迎えている金公園～柳ヶ瀬エリア。昭和の時代に栄えたショッピングや映画を楽しむ岐阜随一の繁華街から、子育て世代を含め、暮らす人々にとって便利で優しいエリアへと生まれ変わろうとしています。

キーマンに聞いた エリアの定番



A ニューパロマ

昭和レトロな雰囲気の色濃く残す純喫茶。半地下の店内には漫画がずらりと並び、思わず長居をしなくなる居心地の良さ。熱々の鉄板に乗ったスパゲティやカレースパゲティが人気。

岐阜市柳ヶ瀬通3-24
6:00～14:30 無休 TEL.058-262-2087

大学時代、ここでアルバイトをしていました。常連さんのマイカップが専用棚に並んでいて、僕のカップも置いてあります。（哲司）

B 元祖みそかつの店 一楽

戦後に屋台から始まった初代の「元祖みそかつ」の味を三代目が守る。八丁味噌とザラメで作られたさらりとした味噌ダレがたっぷりかかったみそかつは、まさに岐阜のソウルフード。

岐阜市弥生町13 オレンジ通り弥生ビル1F
11:30～14:30、17:00～21:30 月曜定休（祝日の場合は翌日）

みんなが黙々と、みそかつをひたすらかき込み、食べることに集中している感じが好きです。狭いカウンターが落ち着くんですよ。（沙奈）

C ビッカフェ

「やながせ倉庫」にある“美味しいコーヒー”と“偶然”と“違和感”をコンセプトとするカフェ。ライブやワークショップ、併設するギャラリーでのアート展示などユニークなイベントを多数開催。

岐阜市弥生町10 やながせ倉庫2号館
12:00～18:00（金曜は15:00～21:00）火・水曜定休

柳ヶ瀬で一番ニッチなイベントをやっているお店。前身の古本屋「bica books」は、初期のやながせ倉庫を支えてくれた存在です。（哲司）

ぎふ
古今

写真で巡る昔と今

メディコス内の「ぎふ古今」にある端末では、古い地図や写真を通して、岐阜のまちの歴史を巡ることができます。金公園～柳ヶ瀬エリアの「古今」の景色を比べてみましょう！

古
柳ヶ瀬本通り



岐阜市歴史博物館蔵

柳ヶ瀬本通りを西から東に向いて撮影したもので、右側奥に写るビルは旧近鉄百貨店の前身である丸物百貨店。現在整備されているアーケードはまだないが、さまざまな商店が軒を連ね、多くの人で賑わう様子がうかがえる。

今
現在の柳ヶ瀬本通り



柳ヶ瀬を楽しむまちにする献提供

柳ヶ瀬本通りなどで毎月開催される「サンデービルディングマーケット」は100を超える出店者が手作りやこだわりの商品を販売。若い世代を中心に新たな客層が多く訪れ、商店街の変化を象徴するイベントとして定着してきている。

古
柳ヶ瀬周辺



瀬古写真館提供

昭和20(1945)年の空襲で焼け野原となった柳ヶ瀬。旧丸物百貨店屋上から西方を望む。左右に通る道は金華橋通り。戦災区域は市街地の80%、焼失家屋は全戸数の52%で、主要なインフラも多大な被害を受けた。

今
現在の柳ヶ瀬周辺



高島屋南市街地再開発組合提供

写真中央に写る、再整備されたセントラルパーク「金公園」と柳ヶ瀬の新たなランドマーク「柳ヶ瀬グラスル35」が令和5(2023)年春にオープンし、さらなる人の流れと賑わいの創出が期待されている。

GIFU-KOKON GALLERY